



うちのイチ押し!

# オンラインで楽しむミュージアム

## 大阪市立自然史博物館

### 自然史博物館を おうちでも楽しもう!



自然史博物館では、おうちで楽しめるコンテンツをまとめた「おうちミュージアム」を公開しています。恐竜の骨格模型がある第2展示室を360度の視点でリアルに体感できる「Panoramas 360 VR」、大阪湾に流れ着いたナガスクジラが骨になり博物館で展示されるまでを紹介する絵本「ナガスケ」の読み聞かせ、学芸員のギャラリートークやZoom背景の提供など、アマチュアからセミプロまで学んで楽しめる自然に関する話題が盛りだくさん。ぜひご覧ください。



学芸員によるギャラリートークの撮影風景



360°画像の画面キャプチャーです。

住所 〒546-0034 東住吉区長居公園1-23  
電話 6697-6221 FAX 6697-6225  
HP <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

## 大阪市立科学館

### ツイッター 学芸員 @大阪市立科学館 他



新型コロナウイルス感染症や、様々な事情で科学館にお越しいただく事ができなくても、科学館ではツイッターで天文・物理・化学などの情報や実験の動画を各分野専門の学芸員が発信しています。最新の科学情報や、自宅でもしてみたいくなる実験、リツイートして人に教えたいくなる話題など盛りだくさん。

また、館長のつぶやきや、広報スタッフのつぶやきもありますので、ぜひご覧ください。

他にも、学芸員などが、展示物を紹介している「学芸員の展示場ガイド」(YouTube)もお見逃しなく!



「学芸員の展示場ガイド」撮影風景



学芸員@大阪市立科学館

住所 〒530-0005 北区中之島4-2-1  
電話 6444-5656 FAX 6444-5657  
HP <https://www.sci-museum.jp/>



おおさか

## 歴史探訪

158

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

## 大坂の食を支えた近郊農業地帯と天満青物市場

夏のたのしみのひとつに彩り豊かな夏野菜があげられます。近年注目されている「なにわ伝統野菜」のなかにも、毛馬胡瓜や玉造黒門越瓜、勝間南瓜などの夏野菜があります。

近世の大坂都都市部に供給された野菜の主な産地として、近郊の難波・木津・今宮・西高津・勝間・今在家・中在家・吉右衛門肝煎地からなる「畑場八カ村」があげられます。現在の中央区・天王寺区から住之江区にあたり、上町台地とその西側の砂堆上に位置しています。近年、難波周辺で行われた発掘調査では、中～近世の耕作地とこれに伴う排水路や灌漑用とみられる水溜めが見つかっています。文政5(1822)年に出版された『農具便利論』には、大坂の砂地では畑ごとに井戸が設けられたことや、日照りが続く畦間に水を流したことなど灌漑のようすが記されています。中央区の南西部から住之江区にいたる沿岸低地は水不足に備えた工夫が必要な一方で、寛文10(1670)年の高潮災害では大きな被害を受けました。

作物を栽培する生産者と消費者の間をつないだのが、天満橋から天神橋の間の大川北岸一帯にあった天満青物市場でした。青物市場のはじまりは大坂本願寺の門前市といわれていますが、天満に定着したのは承応2(1653)年のことです。水運を利用して近郊はもとより摂河泉や大和・山城・近江などから農産物が集まり、野菜・果物の供給市場として近世～近代を通じて大変賑わいました。

大都市大坂の食を支えた近郊の農業地帯は、近代以降の市街地の拡大により徐々にすがたを消していきました。天満青物市場は昭和6(1931)年に大阪市中央卸売市場(福島区野田)の開設により統合され、その後も一部、配給所や分場として存続していましたが、昭和20(1945)年の空襲により焼失し廃場となりました。

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



天満青物市場跡顕彰碑  
(北区天満3-2 南天満公園)